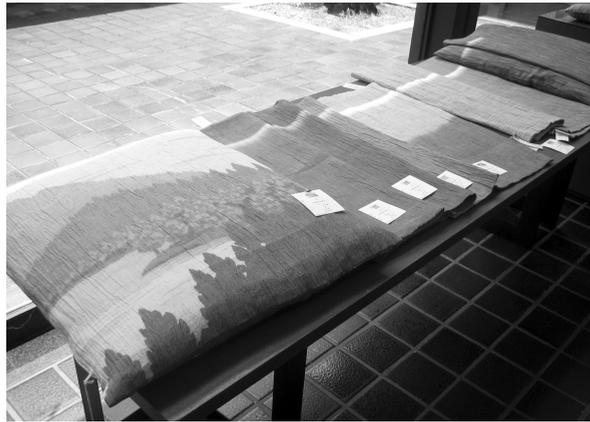


## ひかりのいろ近江の麻展 一心地よい伝統の布から生まれる思いがけないモダンさー



### ■紺工房 Fabrica ひかりのいろ近江の麻展

■2007年6月7日～12日

■京都クラフトセンター 1F

もともと日本には日常の生活の中に四季を取り入れ、暮らしを楽しむ工夫がありました。風にゆれる麻のれんや、軒につるした風鈴の音で涼を感じ、寝具や座布団、肌着や服など、肌に触れるものにはサラッとした麻素材やちぢみを使用し、暑さを和らげ快適に過ごしていたのです。今でこそロハスやエコという言葉を用いていますが、かつては意識しないまま人に優しく、自然にも優しくした日本の暮らしが普通にあったのです。

これら日本人の知恵を再認識し、昔の日本の生活に戻るのではなく、その知恵と工夫を感性として取り入れ、現代の生活に再生して取り入れていけるように、また次の世代に繋がるように、そのために提案できる製品の開発や販売、プレゼンテーションを行っていきたくと考えています。早く、安く、また余分な付加価値を作ってきたがために失われてしまった上質な素材、時間の掛かる仕事、職人魂・・・今こそあえて取り戻したいと思っています。

私は、滋賀県湖東産地で麻織物の仕事に関わって、25年が経ちました。日本でしか出来ないこと、滋賀県でしか出来ないこと、湖東産地でしか出来ないことを追求し、この産地で日本製を作り続けて行きたいと思っています。  
(北川 陽子)

